

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081101) 大学入門ゼミ L(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 轟木 靖子, 北林 雅洋, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論(イ) 履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。) 【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081102)	大学入門ゼミ	前期月1	
大学入門ゼミ L(2) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 教職概論(イ)		
若井 健司, 北林 雅洋, 松下 幸司	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的			
この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1)日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2)附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3)プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ			
(授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081103)	大学入門ゼミ	前期月1	
大学入門ゼミ L(3) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 教職概論(イ)		
櫻井 佳樹, 片岡 元子, 松下 幸司	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的			
この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1)日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2)附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3)プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ			
(授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081104) 大学入門ゼミ L(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 岡田 涼, 片岡 元子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論(イ) 履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。) 【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期月1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081105)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ L(5) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	関連授業科目 教職概論(イ)		
担当教員名 松本 博雄, 小方 朋子, 松下 幸司	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標 1)日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2)附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3)プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。) 【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081106)	大学入門ゼミ	前期月1	
大学入門ゼミ L(6)	水準 学士:入門科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード: abd	特定プログラムとの対応
大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 教職概論(イ)		
唐澤 晃一, 小方 朋子, 松下 幸司	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的			
この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1)日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2)附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3)プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ			
(授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。			
第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。			
第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。			
第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。			
第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。			
(詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。			
「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081107) 大学入門ゼミ L(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 上野 耕平, 小方 朋子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論(イ) 履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準			
中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。) 【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等			
その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。 「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。			

ナンバリングコード B1ACL-bcdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081201) 大学入門ゼミ J(1) Startup Seminar on Academic Literacy 法令の読み方と作り方 How to Read and Draft Laws	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 青木 丈	関連授業科目 履修推奨科目 法学部の入門科目	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 みなさんがこれから学ぶことになる「法律」は、そもそもどのように作られているのでしょうか。立法のプロセスや法令の内部構造等について、主として租税法の条文をサンプルとしながら解説し、法令用語のルールに基づいた文章の書き方を伝授します。また、グループワークにおいてオリジナルの法律案を起案してもらいます。			
授業の目的 法令の条文は読みづらく難解です。特に租税法の条文はそれが際立っていて、一般的な日本語とは別の言語ととってもよさそうです。英語を理解するための勉強をするように、法令用語のルールを学べば条文を抵抗なく読めるようになります。法令は、明治以来積み重ねられてきた様々な合理的な実務慣行により、非常にシステムティックに作られています。この合理的なシステムを知ることにより、法令の読解力と法的な文章力を身につけることができます。また、グループワークでオリジナルの法案を起案してみることで、社会の諸課題に対する探究能力を培います。			
到達目標			
1. 法令の条文を抵抗なく読めるようになる。 2. ルールに従った法的な文章が書けるようになる。 3. 社会の諸課題に対する探究能力を身につける。			
成績評価の方法と基準 グループワークの参加状況(発表や発言等)などをにより、総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回: ガイダンス・授業の進め方など 第2回: 図書館・資料室ガイダンス 第3回: 情報整理の方法/日本語技法① 第4回: 日本語技法②/プレゼンテーションの方法 第5回: 法学部・講演会 第6回: 日本国憲法の意義 第7回: 法令の形式 第8回: 法令の仕組みと法令用語のルール等① 第9回: 法令の仕組みと法令用語のルール等② 第10回: 法令の仕組みと法令用語のルール等③ 第11回: グループワークのテーマ解説等 第12回: グループワークによる報告① 第13回: グループワークによる報告② 第14回: グループワークによる報告③ 第15回: 全体のまとめ			
ただし、上記の授業計画は、進捗状況等に応じて変更することがある。			
教科書・参考書等 教科書: 青木丈『租税法令の読み方・書き方講座』(税務経理協会, 2018) ¥2,400+税			
オフィスアワー 木曜13時～14時/法学部棟(幸町南6号館)5階研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 『ポケット六法』等必携。 出席をとるので、無断で遅刻・欠席はしないでください。			
教員の実務経験との関連 総務省行政管理局で法制執務に従事した実務経験をもとに、条文作成のルールや立法趣旨を踏まえた法解釈のあり方等についてゼミを行います。			

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 081202) 大学入門ゼミ J(2) Startup Seminar on Academic Literacy 平和についての研究 Peace Studies	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 石井 一也	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
参加者は、グループで平和にかんする個別具体的なテーマを選定し、分析、討論を重ね、最終的に論文を作成する。			
授業の目的			
本授業の目的は、次の四つである。第一に、平和にかんする諸事象を理解しつつ、社会科学に必要な諸概念を理解できるようにすること、第二に、日本語の読解および表現の能力を養うこと、第三に、プレゼンテーション(およびディスカッション)の能力を養うこと、そして第四に、グループ学習を通じて、各人の責任感と協調性を養う(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)ことである。			
到達目標			
本授業の到達目標は、次の四つである。第一に、平和にかんする諸事象を理解するために、学問への知的好奇心を持つこと、第二に、書物を読んで理解し、また自身の考えを紙面で的確に表現できるようにすること、第三に、自身の考えを口頭で明確に表現でき、なおかつ他者の発言を理解しながら議論できるようにすること、第四に、他者との共同作業に責任をもって携わり、これを楽しめるようにすることである。			
成績評価の方法と基準			
①共同作業およびディスカッションへの貢献度(20点)、②研究内容の深さ(30点)、③報告能力の水準(20点)、④レポートの完成度(40点)を評価の基準とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
参加者は、グループでの学習を通じて平和にかんする諸事象を分析、その内容についてのプレゼンテーションを全員に対して繰り返し行う。最終的には、選んだテーマについて論文を作成して提出する。その過程で、社会科学の諸概念を理解するとともに、ノートのとり方、日本語の技法、レポート(論文)の書き方、プレゼンテーションの方法などを学んでゆく。 第1回 はじめに: 自己紹介、グループ分け 第2回 問題の設定・図書館と資料室の訪問 第3回 "・ノートのとり方 第4回 全体会報告・情報整理の仕方 第5回 法学部 講演会 第6回 グループ内討論・日本語技法1および2 第7回 "・プレゼンテーションの方法 第8回 中間報告①、②、③・レポート(論文)の書き方(研究倫理教育含む) 第9回 "④、⑤・講演会 第10回 グループ内討論 第11回 " 第12回 全体会報告①、② 第13回 全体会報告③、④ 第14回 全体会報告⑤ 第15回 おわりに: 講評、反省会			
教科書・参考書等			
参考書: 日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』法律文化社(2000円税別)。			
オフィスアワー 水・木 午後2:00～3:00 (法学部石井研究室 6号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
大学入門ゼミナールは、全学共通科目として大学での学習への導入を意図している。このため、法学・政治学の思考様式に縛られずに社会現象を観察する姿勢が求められる。議論を活発なものにするためには、参加者一人ひとりの積極的な貢献と、参加者相互の助け合いの精神が不可欠である。消極的姿勢は、マイナスの評価につながるので、くれぐれも注意されたい。			

ナンバリングコード B1ACL-abxG-10-Eg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081203)	大学入門ゼミ	前期火4	
大学入門ゼミ J(3)	水準 学士: 入門科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード: abx	特定プログラムとの対応
アカデミックスキルズの実践	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 民法、刑法、憲法、民事訴訟法		
春日川 路子	履修推奨科目 民法、刑法、憲法		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
大学では専門的な学問領域について、自分で学習することが要求されます。具体的には、レポートを作成したり、テーマに関する報告・発表を行うこともあります。さらに、グループに分かれて複数の人と協力して学ぶ機会もあります。この授業では、法律をテーマとする文献の輪読や内容の発表を通して、大学で学ぶ上で参考となる技術や方法を実践します。			
授業の目的			
法律に関する文章を題材として、大学での学習の参考となる技術や方法を知り、それらを与えられた課題において適用できるようになる。			
到達目標			
大学での学習の参考となる技術や方法を列挙できる。 学習した事項を与えられた課題に適用できる。 クラス全体およびグループごとの活動や討論に寄与できる。			
成績評価の方法と基準			
出席、提出物の提出状況、課題への取り組み状況、授業中の態度（発言、クラス全体またはグループワークへの寄与）から総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業の進捗状況等により、予定を変更することがある。			
第1回 ガイダンス 第2回 図書館・資料室ツアー(予定) 第3回 情報整理の方法、日本語技法、レポートの基礎事項 第4回 レポートの書き方① 第5回 法学部講演会(予定) 第6回 レポートの書き方② 第7回 プレゼンテーションの方法① 第8回 プレゼンテーションの方法② 第9回 グループ報告の実践① 第10回 グループ報告の実践② 第11回 期末報告①-1 第12回 期末報告①-2 第13回 期末報告②-1 第14回 期末報告②-2 第15回 授業の振り返り			
自学自習のアドバイス 授業内で配布予定の資料を予習して授業に出席すること。 事前学習として資料を読んで疑問点を明らかにする、意見を考える、発表の準備をする、事後学習として資料を再度読む、自身および他のグループの発表の内容および発表態度を振り返り替える等の学習を行ってほしい。 授業のなかで紹介された具体的な技術や方法を、ほかの授業のなかでも実践するとよい。			
教科書・参考書等			
授業内で適宜資料を配付する。			
オフィスアワー 木曜12時30分から13時30分(前期後期共通) 幸町南6号館4階 春日川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
演習形式の授業なので、授業に出席し、他の受講者と意見を交換するなど積極的に発言してほしい。			

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081204) 大学入門ゼミ J(4) Startup Seminar on Academic Literacy 自由と法について考える Startup seminar -Liberty and Law	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 岸野 薫	関連授業科目 履修推奨科目	
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 ゼミの前半では、大学生・社会人として必要な知的技法を身につけることを目指します。 ゼミの後半では、前半に学んだ基本的スキルを生かして、自由と法にかかわる問題を素材にグループで報告・討論を行い、その問題をいかにして解決するかを考えていきます。			
授業の目的 本ゼミは、①大学生として必要な知的技法を学ぶと同時に、②基本的な法的思考方法を身につけることを目的とします。			
到達目標			
①必要な形式を守り、課題に沿った内容のレポートを書くことができる。 [→共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応] ②法的課題を見つけ出し、解決の道筋を考えることができる。 ③積極的に議論に参加し、他者を説得する意見を述べることができる。 [→②及び③は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応]			
成績評価の方法と基準 各事例毎のミニレポート(複数回)、2000字のレポート(1回)、議論への参加状況によって、総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス 第2回 大学図書館・法学資料室で資料収集の方法を学ぶ 第3回 情報整理の方法・日本語技法①②を学ぶ 第4回 レポート作成時の作法(研究倫理)を学ぶ 第5回 講演会 第6回 プレゼンテーションの方法を学ぶ 第7回 実践:未成年者の自由と法(前) 第8回 実践:未成年者の自由と法(後) 第9回 実践:表現の自由と法1(前) 第10回 実践:表現の自由と法1(後) 第11回 実践:表現の自由と法2(前) 第12回 実践:表現の自由と法2(後) 第13回 実践:自由と平等(前) 第14回 実践:自由と平等(後) 第15回 まとめ *第2回から第6回は「共通コンテンツ」となります。図書館・資料室の見学、講演会の日程については現在未定のため、第2回から第6回の中で順番が入れ替わることがあります。 【自学自習の方法】 第2回から第6回については、出された課題をこなすことが必須となります。 第7回以降では、グループに分かれて報告を担当します。報告班はレジュメの作成等の報告準備を行い、報告班以外は各回に予定されている事例を予習し、議論に備えます。 授業後には、報告班は2000字のレポートを作成します。報告班以外の受講者はミニレポートを作成し、次の授業で提出します。			
教科書・参考書等 教科書は指定しません。毎回資料を配布します。			
オフィスアワー 前期:月曜日16:20-17:20 南キャンパス6号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 後半の自由と法に関する事例を使った実践では、討論が中心となります。 討論は、報告班以外の受講者が積極的に議論に参加することで成り立っています。事前の準備は怠らないようにしてください。期末試験のない演習形式の授業ですので、毎回の議論への積極的な参加が求められることになります。 また、無断欠席は厳禁とします。			

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081205) 大学入門ゼミ J(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ J 高齢社会と法 (Aged Society and Law)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 肥塚 肇雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、高齢社会を迎えて生じる比較的身近な法律問題として民事事件を取り上げ、グループ毎で調査・報告を行い、受講生全員で議論をする形式で進めます。また、実際に、社会福祉施設を見学し職員の方々から現場での取り組みや法的な矛盾点を学び理解を深めます。			
授業の目的 受講生の皆さんは「知的好奇心」を大切にしてください。大学で主体的な「学び」を続ける推進力は「知的好奇心」にはかならないからです。本授業では、一定の「学ぶ」作法(大学で学習するために必要なスキル<読み、書き、調べて、考え・伝える力→プレゼンテーション力>)は「学び」を他者と共有するために必要です。受講生は、本授業からこれらのスキルを身に付けることによって、「学び」を他者と共有できるようになります。			
到達目標			
1. 文章を読み、問題点を発見することができる。 2. 必要な情報を収集・整理し、レポートを作成することができる。 3. より表現力が豊かなプレゼンテーションを行うことができる。			
成績評価の方法と基準 少人数ゼミのため、出席を重視します(無断欠席は認めません)。併せて、プレゼンテーション、質疑応答及びレポート課題の評価などにより総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画<予定>】 (注)大学入門ゼミの共通コンテンツ、見学施設の事情、授業の進度及び受講生の数等によって、授業計画を適宜変更する場合があります。また、やむを得ず休講する場合があります。 第01回 ガイダンス 第02回 情報整理の方法 第03回 図書館・資料室ガイダンス 第04回 日本語技法① 第05回 <法学部・講演会> 第06回 日本語技法② 第07回 レポートの書き方 第08回 プレゼンの方法 第09回 グループワーク<GW>(判決文を読んでみよう！) 第10回 社会福祉施設見学 第11回 グループワークによる報告・議論① 第12回 グループワークによる報告・議論② 第13回 グループワークによる報告・議論③ 第14回 グループワークによる報告・議論④ 第15回 まとめ			
【学習の方法】 前半は、「学び」を他者と共有するために必要な各種のスキルを身につけます。 後半は、実際の判決文に触れます。事前に配布したプリント(判決文)をもとに、グループごとに準備作業を行い、調べ考え、それをプレゼンテーションします。そのため、上記授業計画においてグループワークの時間を設けていますが、授業時間以外でも必要に応じてグループごとで準備作業を行うことが求められます。			
【自学自習の方法】 前半は、復習を中心に行ってください。 後半は、準備作業を行うこと、授業で出された課題が自学自習の内容になります。			
教科書・参考書等 必要に応じ、テーマ毎にプリントを配布します。			
オフィスアワー (注)やむを得ず変更する場合があります 前期=火曜日9:45-10:15(法学部棟<幸町南6号館>4F研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席はみとめられませんので、注意して下さい。レジュメ、課題や共有資料は、香川大学Moodleにupし			

ますので、各自ダウンロードしたり参照して自学自習に励んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lp2 授業科目名 (時間割コード: 081206) 大学入門ゼミ J(6) Startup Seminar on Academic Literacy 法学入門(民法を中心に) (Introduction seminar of a civil law)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
	担当教員名 藤田 寿夫	関連授業科目 民法入門 履修推奨科目 民法入門	
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間) 発表担当者でなくとも、最低限、教科書の該当ページについて読んでくること。			
授業の概要 この演習では、民法を中心に法律学の方法について議論をします。また、民法に関連する映画も見ます。1年生の前半に法学部では、民法入門がありますが、それと並行して、民法の基礎的知識を習得していきます。			
授業の目的 この演習では、民法の財産法の重要な制度を扱い、民法の財産法の概略を学んでいきます。そのために、学生がレジュメを準備し、その内容を発表し、議論していきます。演習の最後には、グループごとにプレゼンテーションをしてもらいます。			
到達目標			
1. 民法の基礎的知識を養い、今後の専門科目を受講する際の土台を形成できる。 2. 今後の学生生活にとって必要な知識やマナーを習得できる。 3. 大学の施設や設備を活用することができる。			
成績評価の方法と基準 発表、小レポート、プレゼンテーション、受講態度などを総合的に考慮し判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス+情報整理の方法・日本語技法①②・レジュメの作り方・プレゼンテーションの方法 第2回 施設訪問(大学図書館・法学部資料室ガイダンス) 第3回 映画鑑賞 第4回 契約成立から履行終了(1) 第5回 〈法学部・講演会〉 第6回 契約成立から履行終了(2) 第7回 契約成立から履行終了(3) 第8回 契約が履行されなかったとき(1) 第9回 契約が履行されなかったとき(2) 第10回 契約が履行されなかったとき(3) 第11回 その他の紛争(1) 第12回 その他の紛争(2) 第13回 各グループのプレゼンテーション(1) 第14回 各グループのプレゼンテーション(2) 第15回 各グループのプレゼンテーション(3)			
施設訪問などについては開催日が変更されることがあります。 受講生の人数などによっては、上記計画は変更することがあります。			
教科書・参考書等 【教科書】 米倉明『プレップ民法第5版』弘文堂(2018年) 1700円 種類は問わないが六法を持参すること。			
オフィスアワー 火曜午後6時から7時(6号館3階研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 欠席は原則として認めません。また、質問、意見などの受講態度なども成績評価の対象とします。講演会に参加することがあります。			

ナンバリングコード B1ACL-bcaG-10-Eg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081207)	大学入門ゼミ	前期火3	
大学入門ゼミ J(7) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:bca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
時事問題について考える Study of Current Topics	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 前原 信夫	関連授業科目		
	履修推奨科目 法学部の入門科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
この授業では、情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法など、大学で勉学するために必要な基本的スキルを習得する機会を提供する。そしてそれを踏まえて、広く経済・社会一般で話題になっている時事問題を題材とし、その問題の内容や背景等について理解を深めるために、協同学習(グループワーク)により調査・検討・報告を実施する。			
授業の目的			
決して一問一答型の答えや正解探しでない時事問題の内容を理解するとともに、そうした問題が経済・社会に与える影響や課題の考察を通して、大学生の資質として求められる「調べる・考える・伝える」力を身に付ける。			
到達目標			
(1)学習に必要な資料や情報を収集・整理することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2)各テーマの時事問題に関する資料や情報を正確に捉え、説明することができる(共通教育スタンダードの「知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (3)調査・検討した成果や自分の意見をまとめ、わかりやすく伝えることができる(共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
(1)報告(報告用のレポート作成や口頭発表等):60% (2)質疑応答を通じた授業への貢献度:40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス・授業の進め方について／自己紹介 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 情報整理の方法 第4回 日本語技法① 第5回 法学部・講演会 第6回 日本語技法② 第7回 プレゼンテーションの方法・レポートの書き方 第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク) 第9回 グループワークによる報告(テーマ①) 第10回 グループワークによる報告(テーマ①) 第11回 グループワークによる報告(テーマ②) 第12回 グループワークによる報告(テーマ②) 第13回 グループワークによる報告(テーマ③) 第14回 グループワークによる報告(テーマ③) 第15回 全体のまとめ ただし、上記の授業計画は受講生の数および進捗状況に応じて変更することがある。 【授業および学習の方法】 第2回から第7回までは、大学で勉学するために必要な基本的スキルを学ぶ。第8回以降は、各テーマにおいてグループで準備作業を行い、調査・検討・報告を行うことになる。 【自学自習のためのアドバイス】 第9回から第14回のグループワークによる報告では、上記の授業計画において「第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク)」を設けているが、授業時間外でもグループ単位で継続して準備作業や報告の打合せ等を行うことが必要になる。			
教科書・参考書等			
特に指定しない。必要な資料は配布するが、グループワークでは受講生各自で資料収集を行う必要がある。			
オフィスアワー 火曜日17時-18時／法学部棟(幸町南6号館)5階研究室)。これ以外の時間帯を希望する場合は、下記メールアドレス宛てに事前に連絡すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
無断で欠席した受講生には単位を認定しない。			

ナンバリングコード B1ACL-bcdG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081208)	大学入門ゼミ	前期火4	
大学入門ゼミ J(8) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
転換期における雇用社会の実態と将来の展望 (The current situation and future of the world of work on the turning point)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 細谷 越史	関連授業科目 労働法、社会保障法		
	履修推奨科目 憲法、民法		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要			
近年におけるワーキングプアと呼ばれる労働者層の増加や派遣切りの増加などに見るように、雇用社会の実態は厳しさを増している。また、労使関係をめぐる法制度は、国際競争の激化、日本の労使関係の変容や労働組合の組織率低下などの状況変化にさらされ、その進むべき方向性を見失っているように思われる。このような激変期の下で、雇用社会の実態を認識し、また、労働基準法や労働契約法を中心とする個別的労働関係法分野ならびに、労働組合法を中心とする集団的労働関係法分野における各法制度に検討をくわえ、さらに、今後の雇用社会に関わる法のあり方を展望する。 【他の授業科目との関連】なお、本ゼミを受講すると同時に、憲法や民法の基礎的知識を習得されることが望ましい。さらに、労働法や社会保障法の受講も推奨する。			
授業の目的			
主として労使関係をめぐり社会に生じる諸現象を的確に捉えたうえで、こうした現象を素材にして、整理・分析・議論等の手法を身につけることを目的とする。			
到達目標			
1. 雇用社会に生じている諸問題を的確に捉えることができる。 2. 今後の雇用社会のあるべき姿を展望することができる。 3. こうした学習を通じて、学生個々人が目的意識をもって学生生活を送ることができる。			
成績評価の方法と基準			
出席点にくわえて、課題についての報告への取り組みや質問等に対する受け答えを基本的な評価要素とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
設定された課題について受講生に報告を行ってもらい、それを受けて質疑・応答を行い、そのテーマに関する理解を深める。 設定された課題については、報告者のみならず全員が資料収集と検討を行う必要がある。			
第1回 情報整理の方法を学ぶ。 第2回 図書館や資料室を見学し、文献収集の技法などを学ぶ。 第3回 プレゼンテーションの方法などを学ぶ。 第4回 レポートの書き方、日本語技法などを学ぶ。 第5回 講演会に参加し、プレゼンテーションの実践を学び、レポートをまとめる。 第6回 本ゼミの検討テーマに関する概括的な説明および意見交換を行う。こうしたテーマをめぐり受講生の興味・関心などを聞いたうえで、本ゼミの方向性ないし、検討素材、報告課題等を確定する。 第7回～第15回 前回に決定された検討素材や報告課題に関する受講生による報告と、質疑・応答を行う。			
教科書・参考書等			
特定の教科書は指定しない方向で考えている。 参考書としては、西谷敏『労働法〔第2版〕』（日本評論社）4700円+税 菅野和夫『労働法〔第11版〕』（弘文堂）5300円+税 『労働判例百選〔第9版〕』（有斐閣）2476円+税 などをあげることができる。 なお、ゼミを受講するに際してさしあたり何かを購入しておく必要はない。			
オフィスアワー 原則として火曜5限とする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回の予習と質疑・応答への積極的な参加、十分な準備に基づく報告などを通じて、法学学習・研究に不可欠な基礎力を養っていただきたい。			

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081301) 大学入門ゼミ E(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備時間30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的			
市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ			
* 上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 * 第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 * 上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			

【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。	
教科書・参考書等 資料を適宜配布する	
オフィスアワー	初回の講義時に伝達する
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席には厳正に対処する	

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード: 081302) 大学入門ゼミ E(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。 【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			

【自学自習に関するアドバイス】 出される課題を効率的にこなすためにも、復習することをお勧めします。 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。
教科書・参考書等 その都度、配布します
オフィスアワー 毎週火・水曜の昼休み@海野研究室（幸町南2号館2階） ただし出張等で不在にする場合があるので、事前にメールを入れると確実です
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 連絡等の手段として「香川大学 Moodle」を使うので、気にかけるようにしてください

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-EL2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081303) 大学入門ゼミ E(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル（情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等）をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標 1. アカデミック・スキル（日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション）を身につけることができる。（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」（幅広いコミュニケーション能力）に対応） 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」（幅広いコミュニケーション能力）に対応） 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出（1回以上）、PPTを使ったプレゼンテーション（1回以上）などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1（eメールの書き方・実践） 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修（フィールドワーク） 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ			
*上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 *第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の回は自筆ノートやハンドアウトを用いて復習を行うこと。また、グループワークの回では輪読に基づくゼミ			

を行うので予習が必須である。

このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

後藤健太『アジア経済とは何か―躍進のダイナミズムと日本の活路』（中公新書、2019年、820円（税別））。

オフィスアワー 初回時に指定する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

原則すべての回に出席をすること。

課された課題はすべて提出すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-EL2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081304)	大学入門ゼミ	前期火3	
大学入門ゼミ E(4)	水準 学士: 入門科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード: acx	特定プログラムとの対応
大学入門ゼミ	授業形態	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目	情報リテラシーA・B	
高橋 昂輝	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(日本語技法、情報整理の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法等)をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的			
自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解するとともに、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ			
*上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 *第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 ・授業の予習・復習に取り組む。 ・授業で教わった内容にとどまらず、自発的に学習を発展させる。			

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 月曜日 4 時限目（教員研究室）

※そのほか，事前に連絡をもらえれば，出来る限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 不明点や理解に不十分な点などがある場合，そのままにせず，必ず教員に質問すること。
- ・ 正当な理由なき遅刻・欠席は，一切認められない。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード:081305) 大学入門ゼミ E(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 福村 晃一	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】			

このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 初回時に指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

少人数科目なので、毎回出席が原則です。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード: 081306) 大学入門ゼミ E(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 火曜日 4 限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、無断欠席は厳禁。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081307)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ E(7) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態	単位数 2	
大学入門ゼミ			
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的			
市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ			
*上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 *第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

特にありません。

オフィスアワー 金曜日3時限目
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業には積極的な態度で臨むことを求めます。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード:081308) 大学入門ゼミ E(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 星野 良明	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備時間30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ *上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 *第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布する。

オフィスアワー 火曜日 4 時限目（南キャンパス4号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-EL2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081310)	大学入門ゼミ	前期火3	
大学入門ゼミ E(9) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ	授業形態	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(日本語技法、情報整理の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法等)をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的			
自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解するとともに、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	経済学部で学ぶこと		
第2回	キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え		
第3回	キャンパスライフの心得②主体性のある活動について		
第4回	日本語技法その1 (eメールの書き方・実践)		
第5回	図書館の使い方		
第6回	情報整理の方法		
第7回	外出研修(フィールドワーク)		
第8回	レポートの書き方		
第9回	日本語技法その2		
第10回	プレゼンテーションの方法		
第11回	グループワーク		
第12回	グループワーク		
第13回	グループワーク		
第14回	PPTを使った発表		
第15回	PPTを使った発表・まとめ		
*上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 *第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】			
講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】			
予習・復習を必ず行うこと。			

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配付する。

オフィスアワー 毎週水曜日「１５：３０～１７：００」（ただし、会議などでいない場合もある） [幸町南 7 号館 3 階]

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、無断欠席は厳禁。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード:081311) 大学入門ゼミ E(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 森貞 誠	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布します。

オフィスアワー 初回講義時に連絡します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻・無断欠席は厳禁。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード: 081312) 大学入門ゼミ E(11) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備時間30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

入門ゼミナールにおいて指示する。

オフィスアワー 火曜日4時限目
南キャンパス7号館3階安井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

発言を求められた場合には、積極的に発言しなさい。

なお、無断欠席および発表時の欠席は厳禁とする。15分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること(15分以内なら遅刻してもかまわないわけではない)。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード:081313) 大学入門ゼミ E(12) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 山口 尚美	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

とくに指定しません。

オフィスアワー 金曜日14:40～15:30（7号館2階・山口研究室）

必ず事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大人として当たり前のマナーをもって授業にのぞみましょう。

質問は授業終了後、教室でも受け付けます。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2 授業科目名 (時間割コード: 081314) 大学入門ゼミ E(13) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態	単位数 2	
	担当教員名 横山 佳充	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりすることとはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 PPTを使った発表 第15回 PPTを使った発表・まとめ ＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。 【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。 【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモを取りながら参加する。ま			

た、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 水曜日 2 時間目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中、指示のない限りスマホは使わないようにしましょう。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-EL2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期火3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081315)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ E(14) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態	単位数 2	
大学入門ゼミ			
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
まず、キャンパスライフの基本を学び、次に、大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル（情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等）をトレーニングする。さらに、講義や少人数グループワークなどを通して、これから経済学部で学んでいく学生諸君が、市民としての責任感を養いつつ、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的			
市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて、学んだり研究したりするということはどういうことかを実践を通して理解する。また、そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済や社会の諸現象について、グループで問題を考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル（日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理）を身につけることができる。（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」（幅広いコミュニケーション能力）に対応） 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」（幅広いコミュニケーション能力）、「市民としての責任感と倫理観」に対応） 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応）			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出（1回以上）、PPTを使ったプレゼンテーション（1回以上）などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回	経済学部で学ぶこと		
第2回	キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え		
第3回	キャンパスライフの心得②主体性のある活動について		
第4回	日本語技法その1（eメールの書き方・実践）		
第5回	図書館の使い方		
第6回	情報整理の方法		
第7回	外出研修（フィールドワーク）		
第8回	レポートの書き方		
第9回	日本語技法その2		
第10回	プレゼンテーションの方法		
第11回	グループワーク		
第12回	グループワーク		
第13回	グループワーク		
第14回	PPTを使った発表		
第15回	PPTを使った発表・まとめ		
＊上記は標準的な計画であり、教員・進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。 ＊第1回～第3回は、学部行事として実施するため、通常の講義とは異なる時間帯での実施となる場合がある。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 ＊上記以外に、火曜3限の時間帯を利用して、学部行事として、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。フィールドワークを含む場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】			

このゼミナールは教室の外で行われることも多いが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 火曜日12時～13時 渡邊研究室（3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学生活の基盤となる講義です。真剣に、且つ積極的に参加してください。

ナンバリングコード B1ACL-cbdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081401) 大学入門ゼミ M(1) Startup Seminar on Academic Literacy 健康づくりバイキング (Health Promotion)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 宮武 伸行, 鈴木 裕美	関連授業科目 衛生学、公衆衛生学 履修推奨科目	
学習時間 講義(実習を適宜) 90分×15回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 病気を効果的に予防していくためには、運動、食事、ストレス対策等の生活習慣の改善や、健康診断を上手に活用していくことが大切です。本授業では、「健康づくり」の効果的な方法や内容を易しく説明します。みなさん自身も健康づくりを実践できるようにしていただければと思います。			
授業の目的 「健康づくり」の基礎的な内容、方法の理解の上に、実際に自分自身が生活の中で実践したり、まわりの身近な人に実践を促すように説明、支援できるようになる。グループで課題について適切に考察し、プレゼンテーションを行なう。			
到達目標			
1) 健康づくりのいろいろな内容、方法を理解する。(知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識) 2) 健康づくりのいろいろな内容、方法を自分自身の生活の中で実践できる。(問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力) 3) 健康づくりのいろいろな内容、方法をまわりの身近な人に説明できる。(問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力) 4) 考察した内容を適切に(研究倫理に関する規範にしたがう等)プレゼンテーションできる。(倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観)			
成績評価の方法と基準			
出席30%、ミニレポート30%、プレゼンテーション40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回: オリエンテーション、日本語技法、レポートの書き方、情報整理の方法(倫理教育を含む) 第2回: 健康診断のはなし 第3回: 尿検査、便検査のはなし 第4回: 食事のはなし 第5回: 運動のはなし 第6回: こころのはなし 第7回: 子供の健康のはなし(1) 第8回: 子供の健康のはなし(2) 第9回: 高齢者の健康のはなし 第10回: プレゼンテーションの方法 第11回: グループ分けと発表に関するオリエンテーション 第12回: プレゼンテーション作成 第13回: プレゼンテーション作成 第14回: プレゼンテーション発表 第15回: 全体のまとめ [自学自習に関するアドバイス] 第1回～10回: 前回の授業に関することがらを復習すること。(20時間) 第11回～13回: グループ別の発表に間に合うように準備をすすめること。(6時間) 第14回: 他のグループの発表と比較し、考察すること。(2時間) 第15回: 健康づくりに全般について総復習を行なうこと。(2時間)			
教科書・参考書等			
テーマ毎にプリントを配布します。			
オフィスアワー 水曜日、医学部衛生学教室(研究棟7階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
毎回出席をとります。			
教員の実務経験との関連			
地域医療機関で勤務。医療機関での実務経験をもとに生活習慣改善支援についての講義を行います。			

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081402)	大学入門ゼミ	前期水1	
大学入門ゼミ M(2) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
感染症と感染制御 (Infectious diseases and infection control)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 坂東 修二, 岡田 宏基, 桑原 知巳	関連授業科目 感染症ユニット、医療管理学・診断学		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
本授業は学生諸君が大学における学習に必要な基本的スキルを養いつつ、同時に感染症とその制御に関する知識を身につけることを目的としている。授業で養ったスキルを基に、様々な感染症とその制御方法についてグループワークを通して議論を深め、プレゼンテーションを実施してもらう。			
授業の目的			
感染症という課題を通して自ら学ぶことはどういうことかを理解するとともに、そのために必要な各種の技法を習得できるようになる グループワークを通してお互いの意見を交換しながら、作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. 自ら課題を抽出し、資料を調べ、論理的な結論を述べることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 感染症の感染様式とその防御策について説明できる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。 3. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート25%、グループ発表25%、出席50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<授業の方法> パワーポイント、配付資料を中心とした講義とグループワーク、及びプレゼンテーションが中心となる。 第 1? 6回にかけて大学における基礎的素養としてのアカデミック・リテラシーを取り上げる。 第 7?11回にかけて感染症の基礎知識と考え方についての講義とグループワークを行う。 第12?15回にかけて感染症を題材に自ら調査し、グループ内で議論を深めた内容についてプレゼンテーションを行う。			
<授業計画> 第 1回 自己紹介、ゼミナールのオリエンテーション 第 2回 情報整理の方法 第 3回 レポートの書き方 第 4回 日本語技法 1 第 5回 日本語技法 2 第 6回 プレゼンテーションの基本 第 7回 感染症の考え方 第 8回 感染様式と防御策 第 9回 肺炎と結核感染症 第10回 インフルエンザウイルス感染症とかぜ症候群 第11回 抗菌薬耐性菌 (MRSA) 感染症 第12回 優れたプレゼンテーションとは (感染症を題材に) 第13回 発表課題の決定とディスカッション 第14回 プレゼンテーション作成 第15回 プレゼンテーション発表			
<自学自習のためのアドバイス> 各回1時間程度の事前学習を行うこと。また事後学習も各回1時間程度行うこと。この科目では授業の性質上、ノートを取る技術にも重点を置いており、配布される資料は少ないので、自ら書き取ったノートをもとに事後学習を深めて頂くことになる。			
教科書・参考書等			
テーマ毎にプリントを配布します。			
オフィスアワー 金曜日 14時?17時 医学部講義棟3階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。
積極的な発言や質問を歓迎します。

教員の実務経験との関連

香川大学医学部附属病院 感染制御副部長としての実務経験を基にゼミを行います。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lp2 授業科目名 (時間割コード: 081403) 大学入門ゼミ M(3) Startup Seminar on Academic Literacy 医用画像分野におけるAIの利用 Artificial Intelligence in Medical Imaging	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 PBL	単位数 2	
担当教員名 久富 信之	関連授業科目 医用物理学, 数理科学		
	履修推奨科目		
学習時間 ゼミ90分 × 15回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
近年、医学分野で人口知能は有力な医用画像による診断手法となっています。本ゼミナールでは、医用画像と人工知能およびこれらの適用についての基礎的な内容を調べ理解した上で、利用法や効果について学習・討論します。これらの学習を通し、研究倫理に関する規範に則った方法に関して学びます。			
授業の目的			
自ら資料を調べたうえで、試行錯誤や議論を行うことを目的とします。具体的には、医用画像における人工知能に関連する資料をもとに人工知能適用例や原理についての理解を通して課題解決能力を身に着けます。これにもとづいて、表現法を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができることを到達目標とします。			
到達目標			
自ら資料を調べ、以下のような内容について試行錯誤し論理的な議論のもと適切な表現を用いて自らの見解を分かりやすく伝えながら、結論を導くことができる。加えて、放射線に関連する分野における現状を理解することを通して、課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。 1) 人工知能にかんする原理 2) 医用画像への適用例 3) 医用画像へ適用するにあたっての条件			
成績評価の方法と基準			
ゼミナール中の議論の積極性、理解度、レポート等総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 医用画像における人工知能適用について 第2-6回 人工知能の原理 第7-11回 医用画像への適用例、 第11-15回 医用画像への適用条件 自学自習については、事前の予習が必須です。			
【自習学習のためのアドバイス】 第1回 人工知能適用について説明できるよう準備する(各回1時間) 第2-6回 人工知能の原理が説明できる(各回1時間) 第7-11回 医用画像への適用例が紹介できる(各回1時間) 第11-15回 医用画像への適用条件について説明できる(各回1時間)			
教科書・参考書等 資料を配布します。			
オフィスアワー 【物理】 久富 信之 (オフィス: 医学部講義棟314) 月曜日午前中、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日午前			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 英語で書かれた資料を読むことができる必要があります。			
教員の実務経験との関連 原子核物理学を背景に、国立研究センターおよび海外の国立病院附属研究センターにおいて核医学分野の研究開発に従事。			

ナンバリングコード B1ACL-cabG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081404) 大学入門ゼミ M(4) Startup Seminar on Academic Literacy 生物多様性と実験医学 Biodiversity and Experimental Medicine	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 宮下 信泉	関連授業科目 該当なし 履修推奨科目	
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業は、大学における学習において必要な基本的スキルを養うことを目標としている。また、生命科学全般を基礎的な内容を中心に広く取り上げ、医学・生命科学研究に関わりをもつ動物について分子レベルから個体レベルまでの広範かつ基本的な観点から概観していく。そのため、特に高等学校等において生物が未履修であった学生の履修を推奨する。さらにグループワークとして話し合うことにより、生命にかかわるテーマに関してプレゼンテーションを実施してもらう。			
授業の目的 広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的にとりくみ課題を発見できる。さらにグループワークにおいて課題を抽出し考えることを通じて、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。			
到達目標			
1. 生命科学および生物の多様性に関する基礎的な知見を概括し、人間と生物との関係を、多面的な視点から説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 実験医学研究に用いられる動物がどのように開発されてきたかを要約でき、研究に使われる動物の特性を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自らプレゼンテーションを行うことができる。その際、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト・レポートの提出40% (到達目標 1. 2. に対応)、発表の内容10% (特に到達目標 3. に対応)、出席状況50% で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業の方法] パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習が中心となる。 第 1～ 8 回にかけて、大学において基礎的かつ必須な素養となるアカデミック・リテラシーを取り上げる。 第 3～10 回にかけて、「生物学の基礎」「生物の多様性」に関する講義を行う。 第 11～14 回にかけて、グループごとに設定したテーマに即したプレゼンテーションを行う。 第 11～15 回にかけて、「発生学・発生工学」「実験医学関連諸分野」に関する講義を行う。			
[授業計画] 第 1 回 ゼミナールのオリエンテーション 第 2 回 レポートの書き方 1 第 3 回 レポートの書き方 2 生物学の基礎 (1) 第 4 回 情報整理の方法 第 5 回 日本語技法 1 (メールの書き方) 第 6 回 日本語技法 2 生物学の基礎 (2) 第 7 回 プレゼンテーションの方法 1 生物学の基礎 (3) 第 8 回 プレゼンテーションの方法 2 生物学の基礎 (4) 第 9 回 生物多様性 (1): 生物の進化と分化 第 10 回 グループによるプレゼンテーション 生物多様性 (2): 生物種間の多様性と共通性・人間とのかかわり 第 11 回 グループによるプレゼンテーション 実験医学関連諸分野の基礎的概説 第 12 回 グループによるプレゼンテーション 発生学・発生生物学 (1) 第 13 回 プレゼンテーション予備日 発生学・発生生物学 (2) 第 14 回 プレゼンテーションのまとめ 発生工学とヒト疾患モデル 第 15 回 「実験医学研究と動物」まとめ			
[授業後の生命科学関連の自学自習に関するアドバイス]			

第 2～ 8 回 授業で紹介・配布した資料を読む。生物学の基礎について復習する。
第 9～10 回 生物の進化の歴史、多様性、生態系、文化的側面について調べる。
第 7～11 回 プレゼンテーションの準備を行う。
第 11～15 回 研究用の動物と最近の実験医学研究分野との関連を整理する。

教科書・参考書等

必要に応じて、参考図書・参考資料・文献・論文・web上の情報等を示します。テーマごとにプリント等の配布を行います。

オフィスアワー オフィス：医学部キャンパス動物実験施設

オフィスアワー：木曜日16:00-17:30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。欠席したときには、必ずできるだけ早く欠席した回の資料等を受け取りに来てください。

ナンバリングコード B1ACL-bacG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081405)	大学入門ゼミ	前期水1	
大学入門ゼミ M(5) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
患者との対話から学ぶこと Learning from the dialogue with patients	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
峠 哲男, 藤井 豊, 石上 悦子, 辻京子	履修推奨科目 医学概論 看護学概論		
学習時間 講義90分 x 15回 + 自習時間 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
将来の医療従事者をを目指す学生諸君にとって、この授業が、医療という世界への入門的役割を果たせるように企画しました。また、大学の学びにおいて必要とされる基本的な文献検索の仕方やプレゼンテーション能力も身につくように配慮しました。 一般に医療とは、病気の治療を行って治癒を目指すものですが、現代の医学では完全に治癒することが困難な疾患も多く存在します。このような疾患（難病または難治性疾患と呼ばれる）では、疾患の治療を行うとともに、患者さんのQuality of Life (QOL)の改善を目指すことも重要になってきます。このゼミにおいては、難病などの疾患に罹患した患者さんと直接に会話をしてもらい、学生が自主的にテーマを決めて、それに関する文献やインターネット検索で勉強してもらい、その学習成果をグループで発表してもらいます。この授業を機会に、患者さんの苦しみを少しでも理解することや、医療を取り巻く問題点についても考えてもらえればよいと思います。			
授業の目的			
この授業では、学生諸君がこれから大学教育を受講するための基本的な技能として必要な文献検索やプレゼンテーション技術、レポート作成方法を身につけるとともに（共通スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）（a、b）、将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療や保険制度の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につける（共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）（c）。			
到達目標			
① 図書館やインターネットを使って学術文献の検索ができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 ② 雑誌やインターネットの記事と学術文献の違いを述べるができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 ③ パソコンを使ってプレゼンテーションを行うことができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 ④ 学術文献の要点をまとめて発表したりレポートにまとめることができる（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。 ⑤ プレゼンテーションやレポート作成では、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる（共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。 ⑥ 患者さんに接して会話をすることができる（共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応）。			
成績評価の方法と基準			
発表会での発表とレポートの提出により評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
このゼミの前1/3では、まず総論的に神経系の基本構造と疾患、および難病がどのようなものであるか、難病患者に対する公的支援や社会保障制度にはどのようなものがあるかについて講義を行い、学習してもらいます。また、学内のインターネット接続や文献検索の仕方、パソコンを用いたプレゼンテーションの仕方について演習を行います。 その後は、グループに分かれて香川大学医学部附属病院の病棟において患者さんに接してもらいます。患者さんから病気に関する体験談等の話を聞くと同時に、患者さんが罹患している病気の特徴や治療法、問題点、患者さんを取り巻く医療制度、他の患者さんが書いた体験記等について図書館やインターネットで検索を行い、各グループ毎に発表課題を決定してもらいます。最後にその学習成果をグループ毎にパソコンを使って発表してもらいます。 尚、病棟の患者さんに接するに当たっては、医療情報の漏洩が起こらないように誓約書を提出してもらいます。最後に、各グループ毎の発表に使用した学術文献の中から適切な文献を選択して、そのレビューを行ってもらいとともに、最終的にレポートにまとめて提出してもらいます。			
(1) オリエンテーション レポート作成の要点、日本語の技法 (講義) (2) 神経系の基本的知識と疾患 (講義) (3) 難病の公的支援と社会保障制度 (講義) (4) 学内インターネットの使用法、文献検索の仕方 (演習)			

- (5) プレゼンテーションの仕方、情報整理の方法 (演習)
- (6) 医療現場における会話の技術 (講義&演習)
- (7) 病院の見学・患者との会話 (グループ1-3) と課題発表の準備 (1)
- (8) 病院の見学・患者との会話 (グループ4-6) と課題発表の準備 (2)
- (9) 病院の見学・患者との会話 (グループ7-2) と課題発表の準備 (3)
- (10) 病院の見学・患者との会話 (グループ3-5) と課題発表の準備 (4)
- (11) 病院の見学・患者との会話 (グループ6-7) と課題発表の準備 (5)
- (12) 学習成果のグループ発表 (プレゼンテーション演習1: グループ1-4)
- (13) 学習成果のグループ発表 (プレゼンテーション演習1: グループ5-7)
- (14) 学術文献のレビュー (プレゼンテーション演習2: グループ1-4)
- (15) 学術文献のレビュー (プレゼンテーション演習2: グループ4-7)

事前および事後学習を行えているかどうかについては、各授業時間の最後にグループごとに学習の実施状況について確認を行う。

教科書・参考書等

教科書
なし

参考書

STEP内科〈1〉神経・遺伝・免疫 第2版 高橋茂樹編著 海馬書店 ￥5292 医学部宮脇書店
 新・病態生理でできた内科学7 神経疾患 第3版 五幸恵著 医学教育出版 ￥4536 医学部宮脇書店
 臨床病態学1 脳・神経系疾患 第2版 楠進著 ヌーヴェルヒロカワ ￥3150 医学部宮脇書店

オフィスアワー 峠：月曜日午後4-6時 看護学科教育研究棟2階212号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

病院見学時には服装や態度に注意すること。見学時は白衣着用が望ましい。
 病院見学時には患者さんのプライバシーに配慮すること。

教員の実務経験との関連

峠は香川大学医学部附属病院で脳神経内科外来を担当し、医学科の講義も分担している。藤井は情報リテラシーの講義経験があり、情報系の講義を担当する。石上は助産師としての実務経験あり。辻は保健師としての実務経験があり、これらの経験を生かして講義を行います。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水1	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081406) 大学入門ゼミ M(6) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
双方向学習のスキルアップ Trying to mutually improve the learning skills	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 渡邊 久美	関連授業科目 学習の基本に関する授業科目		
	履修推奨科目 人間理解に関連する授業科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 大学で学ぶために必要な基本的な学習態度と方法、すなわち話し言葉と記述言語の使い方、ノートのとり方、レポートの書き方、コミュニケーション、プレゼンテーション技法などについて、講義と演習および自学自習を通して学び、自尊自立した大学生の基礎を涵養する。			
授業の目的 1. 大学生の倫理的態度と履修上のマナーを習得する。 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを習得する。 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを体験する。			
到達目標			
到達目標 1. 授業に出席する学生のマナーを理解し、医療者に必要な倫理的態度を習得できる。(共通教育スタンダードの市民としての責任感と倫理に対応) 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを操作できる。(共通教育スタンダードの 21 世紀社会の諸問題に対する探求能力に対応) 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを実施できる。(共通教育スタンダードの幅広いコミュニケーション能力に対応)			
成績評価の方法と基準			
評価資料 1. 学習態度 (出席を含む) 20% 2. 参加度 30% 3. 成果物 (試験と同等に扱う) 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は、「講義」と「演習」で構成されています。 演習での成果物は、評価資料となります。			
第1週	ガイダンス、アイスブレイキング; 提示テーマ (元気に過ごすために大切なこと)		
第2週	情報の整理①ノートの取り方について		
第3週	情報の整理②ルーブリック・ポートフォリオについて		
第4週	レポートの書き方①21世紀社会のストレス問題の課題探求(1)		
第5週	レポートの書き方②21世紀社会のストレス問題の課題探求(2)		
第6週	レポートの書き方③現代的ストレス問題への対応策の検討(1)		
第7週	レポートの書き方④現代的ストレス問題への対応策の検討(2)		
第8週	日本語技法①日本語の話し言葉・書き言葉、電子メールの新リテラシー		
第9週	日本語技法②日本語の敬語、連絡・相談・報告の日本語		
第10週	日本語技法③エビデンスと推敲の技法		
第11週	プレゼンテーション技法①アサーションスキル		
第12週	プレゼンテーション技法②ファシリテーションスキル		
第13週	プレゼンテーション技法③リフレクションスキル		
第14週	プレゼンテーション技法④プレゼンテーションスキル		
第15回	プレゼンテーション技法⑤課題報告、プレゼンテーションの体験と評価		
【自学自習に関するアドバイス】			
第1週	遅刻しないで授業に参加し、今後の授業の参加態度を確認する。		
第2週	情報とは何かを考える。		
第3週	大学での学習課題を、いくつかの要素に分けて考える。		
第4週	いくつかの提示テーマから選択して、素材を集める。		
第5週	自分が集めた素材をグループで発表し、意見交換を行う。		
第6週	意見交換を踏まえ、自分の生活体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。		
第7週	相互評価、全体発表、前半のまとめ		
第8週	日本語の話し言葉、書き言葉、メールリテラシーを演習を通して理解する。		
第9週	日本語と文化的背景、国際社会の中における日本人の言葉リテラシーを考える。		

第10週	グループで相互に意見交換を行う。
第11週	アサーションスキルについて調べる。
第12週	ファシリテーションスキルについて調べる。
第13週	プレゼンテーションの題材を決める。
第14週	プレゼンテーションの資料を作成する。
第15週	プレゼンテーションとピア評価、最後に担当教員のまとめ

教科書・参考書等

各講義で必要な資料は配付する。

オフィスアワー 授業日、授業終了後、18:30まで。

前半担当 医学部精神看護学 渡邉久美（教授）医学部看護学教育研究棟616室 電話087-891-2245
--

後半担当 医学部慢性期成人看護学 清水裕子（教授）医学部看護学教育研究棟318室 電話087-891-2240

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入門ゼミは、8:50から始業です。三木町キャンパスは駐車場が朝から混雑します。時間に余裕をもって、遅刻しないようご注意ください。
--

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081407) 大学入門ゼミ M(7) Startup Seminar on Academic Literacy 医療における心理学 Psychology in the medical	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 川人 潤子, 野口 修司	関連授業科目 履修推奨科目 心理学	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、大学生活で必要不可欠な基礎的学習スキルの獲得を目指します。また、心理学の基礎的概念を理解しつつ、医療分野における心理学の意義についてみなさんとともに考えていきます。			
授業の目的 大学生活を円滑に始められるようにするため、レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルなどの基礎的学習スキルを身に付けます。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨きます。			
到達目標			
1. 学術文献等を収集し、その要点をまとめて発表資料を作ることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。 2. プレゼンテーションソフト等を用いて研究倫理を踏まえた発表をすることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「幅広いコミュニケーション能力」に対応)。 3. 心理学の基礎的概念について説明することができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 他の聴講生や教員と積極的にコミュニケーションをとることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「幅広いコミュニケーション能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
受講態度 20%(特に到達目標4に対応), レポート 40%(特に到達目標1, 3に対応), 発表 40%(特に到達目標1, 2に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション:自己紹介等 第2回 日本語表現および手紙・電子メールの書き方 第3回 情報収集の方法とまとめ方(図書館の使い方・インターネットでの情報収集) 第4回 レポートの書き方:レポートの形式と特徴の理解 第5回 レポート「心理学とは」1:レポートの作成 第6回 レポート「心理学とは」2:レポートの校正 第7回 社会で役立つコミュニケーション・スキル 第8回 医学部生が知っておくべき「守秘義務」と「研究倫理」 第9回 プレゼンテーションの技法およびソフトの使い方 第10回 プレゼンテーション「医療における心理学」1:プレゼンテーションの課題説明およびグループ分け 第11回 プレゼンテーション「医療における心理学」2:プレゼンテーションの構成の検討 第12回 プレゼンテーション「医療における心理学」3:プレゼンテーション資料の作成 第13回 プレゼンテーション「医療における心理学」4:プレゼンテーション資料の校正 第14回 プレゼンテーション「医療における心理学」5:発表 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回は川人・野口, 第2回～第8回は川人, 第9回～15回は野口が担当します。 授業は講義および演習形式です。前半8回は講義を中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。後半7回ではグループによるプレゼンテーション課題が主となり、発表に向けて段階的に準備を進めていきます。			
【自学自習のためのアドバイス】 第5, 6回 心理学の領域や歴史などを各自が調べて、レポートにまとめてください。なお、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(20時間) 第11-14回 プレゼンテーションの準備をグループ内で円滑に進めるため、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(40時間)			
教科書・参考書等			
各回で必要な資料を配布します。 オフィスアワー 川人:三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み			

野口：三木キャンパス講義棟 3 階 水曜3時限目
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業は毎回出欠をとります。15分以上遅刻は欠席とみなします。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081501)	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(1) Startup Seminar on Academic Literacy			
大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 林 敏浩, 石塚 昭彦	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的			
大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。			
※到達目標 1. ～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準			
毎回の課題20点 (満点) ×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は全学共通コンテンツ (コース別に授業) および創造工学部共通コンテンツ (全コースで授業) を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】			
第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース)			
第2週 被害者や加害者にならないための心構え (全体)			
第3週 キャンパスライフの心得 (全体)			
第4週 図書館を上手に利用する (全体)			
第5週 情報を整理する ～ノートテキングの勘所～ (コース)			
第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～ (コース)			
第7週 履修方法を深く理解する (コース)			
第8週 情報倫理を考える (コース)			
第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (1) (コース)			
第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (2) (コース)			
第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (3) (コース)			
第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (4) (コース)			
第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (5) (コース)			
第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (6) (コース)			
第15週 大学入門ゼミのまとめ (コース)			
※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS (香川大学Moodle) におけるアナウンスに注意すること。			
※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。			
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。			

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

不在時は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を利用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081502)	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(2) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	関連授業科目 情報リテラシー		
担当教員名 石塚 昭彦, 林 敏浩	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的			
大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。			
※到達目標 1. ～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準			
毎回の課題20点 (満点) ×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は全学共通コンテンツ (コース別に授業) および創造工学部共通コンテンツ (全コースで授業) を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】			
第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース)			
第2週 被害者や加害者にならないための心構え (全体)			
第3週 キャンパスライフの心得 (全体)			
第4週 図書館を上手に利用する (全体)			
第5週 情報を整理する ～ノートテキングの勘所～ (コース)			
第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～ (コース)			
第7週 履修方法を深く理解する (コース)			
第8週 情報倫理を考える (コース)			
第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (1) (コース)			
第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (2) (コース)			
第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (3) (コース)			
第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (4) (コース)			
第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (5) (コース)			
第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか (6) (コース)			
第15週 大学入門ゼミのまとめ (コース)			
※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS (香川大学Moodle) におけるアナウンスに注意すること。			
※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。			
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。			

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習 2 時間、事後学習 2 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

不在時は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を利用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081503) 大学入門ゼミ T(3) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 紀伊 雅敦, 岡崎 慎一郎, 荒木 裕行	関連授業科目 情報リテラシーA		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分× 15回+ 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。			
授業の目的			
「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点と、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行う。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行う。			
【授業計画】 第1週ガイダンス(授業の目的・計画) 第2週被害者や加害者にならないための心構え(学部共通) 第3週キャンパスライフの心得(学部共通) 第4週図書館を上手に利用する(学部共通) 第5週本コースで学ぶこと(コース:新入生研修) 第6週主体性と協調性を養う(コース:新入生研修) 第7週日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方(コース) 第8週レポートの書き方、プレゼンテーション技術(コース) 第9週伝えたいことが相手に伝わっているか(コース) 第10週グループワーク1(クラス別) 第11週グループワーク2(クラス別) 第12週グループワーク3(クラス別) 第13週グループワーク4(クラス別) 第14週グループワーク成果発表、意見交換(クラス別)			

第15週まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性がある。その場合には掲示板等を利用して事前告知する。

【自学自習に関するアドバイス】

第2?4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5?9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10?13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

紀伊 雅敦：創造工学部2号館3階（北）

岡崎 慎一郎：創造工学部2号館3階（南）

荒木 裕行：創造工学部2号館3階（北）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：081504)	水準 学士：入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局：大教センター DPコード：acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(4) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)			
担当教員名 岡崎 慎一郎，紀伊 雅敦，荒木 裕行	関連授業科目 情報リテラシーA		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分× 15回＋ 自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要			
はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。			
授業の目的			
「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21 世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート（複数回）のウェイトを70点と、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業の前半（第9週まで）は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行う。授業の後半（第10週以降）は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行う。			
【授業計画】 第 1週ガイダンス（授業の目的・計画） 第 2週被害者や加害者にならないための心構え（学部共通） 第 3週キャンパスライフの心得（学部共通） 第 4週図書館を上手に利用する（学部共通） 第 5週本コースで学ぶこと（コース：新入生研修） 第 6週主体性と協調性を養う（コース：新入生研修） 第 7週日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方（コース） 第 8週レポートの書き方、プレゼンテーション技術（コース） 第 9週伝えたいことが相手に伝わっているか（コース） 第10週グループワーク 1（クラス別） 第11週グループワーク 2（クラス別） 第12週グループワーク 3（クラス別） 第13週グループワーク 4（クラス別） 第14週グループワーク成果発表、意見交換（クラス別）			

第15週まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性がある。その場合には掲示板等を利用して事前告知する。

【自学自習に関するアドバイス】

第2?4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5?9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10?13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

紀伊 雅敦：創造工学部2号館3階（北）

岡崎 慎一郎：創造工学部2号館3階（南）

荒木 裕行：創造工学部2号館3階（北）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081505) 大学入門ゼミ T(5) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 荒木 裕行, 紀伊 雅敦, 岡崎 慎一郎	関連授業科目 情報リテラシーA		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分× 15回+ 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。			
授業の目的			
「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点と、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行う。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行う。			
【授業計画】 第1週ガイダンス(授業の目的・計画) 第2週被害者や加害者にならないための心構え(学部共通) 第3週キャンパスライフの心得(学部共通) 第4週図書館を上手に利用する(学部共通) 第5週本コースで学ぶこと(コース:新入生研修) 第6週主体性と協調性を養う(コース:新入生研修) 第7週日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方(コース) 第8週レポートの書き方、プレゼンテーション技術(コース) 第9週伝えたいことが相手に伝わっているか(コース) 第10週グループワーク1(クラス別) 第11週グループワーク2(クラス別) 第12週グループワーク3(クラス別) 第13週グループワーク4(クラス別) 第14週グループワーク成果発表、意見交換(クラス別)			

第15週まとめ（コース）

※授業の順番が入れ替わる可能性がある。その場合には掲示板等を利用して事前告知する。

【自学自習に関するアドバイス】

第2?4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5?9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10?13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容（大まかでよい）と希望日時（いくつかの候補）を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

紀伊 雅敦：創造工学部2号館3階（北）

岡崎 慎一郎：創造工学部2号館3階（南）

荒木 裕行：創造工学部2号館3階（北）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード:081506) 大学入門ゼミ T(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (防災・危機管理コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 2	
	担当教員名 高橋 亨輔	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 ※ いずれも共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート (概要版) 10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、全学共通コンテンツ (コース別に授業) および創造工学部共通コンテンツ (7コース全体で授業) を中心に授業を行う。後半は、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え (全体) 第03週 キャンパスライフの心得 (全体) 第04週 図書館を上手に利用する (全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、コースで学ぶこと (新入生合宿) (コース) 第06週 情報整理の方法 (コース) 第07週 日本語技法その1 (コース) 第08週 日本語技法その2 (コース) 第09週 レポートの書き方 (コース) 第10週 eメールの書き方・実践 (コース) 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース) 第12週 グループワーク (グループ) 第13週 グループワーク (グループ) 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第15週 まとめ (コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(3時間) 第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間) 第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(21時間) 第12～13週 課題に関する資料を作成する。(14時間) 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間) 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)			
教科書・参考書等 テーマごとにプリントを配布する。			

オフィスアワー	前期・水曜日 12:20-12:50、林町キャンパス1号館10階 個人研究室
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認します。積極的に自主的に行動するように習慣づけてください。相談はeメールでも受け付けます。	

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：081507)	大学入門ゼミ	前期水2	
大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士：入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局：大教センター DPコード：acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目		
喜田 弘司 , 福森 聡	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート（概要版）10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ（7コース全体で授業）および全学共通コンテンツ（コース別に授業）を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース） 第02週 被害者や加害者にならないための心構え（全体） 第03週 キャンパスライフの心得（全体） 第04週 図書館を上手に利用する（全体） 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと（新入生合宿）（コース） 第06週 情報整理の方法（コース） 第07週 日本語技法その1（コース） 第08週 日本語技法その2（コース） 第09週 レポートの書き方（コース） 第10週 eメールの書き方・実践（コース） 第11週 プレゼンテーションの方法（コース） 第12週 グループワーク（グループ） 第13週 グループワーク（グループ） 第14週 プレゼンテーション実践（グループ） 第15週 まとめ（コース） ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12～13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。			
教科書・参考書等			

テーマごとにプリントを配布する。	
オフィスアワー	水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。	

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081508)	大学入門ゼミ	前期水2	
大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 福森 聡, 喜田 弘司	関連授業科目		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート (概要版) 10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ (7コース全体で授業) および全学共通コンテンツ (コース別に授業) を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え (全体) 第03週 キャンパスライフの心得 (全体) 第04週 図書館を上手に利用する (全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと (新入生合宿) (コース) 第06週 情報整理の方法 (コース) 第07週 日本語技法その1 (コース) 第08週 日本語技法その2 (コース) 第09週 レポートの書き方 (コース) 第10週 eメールの書き方・実践 (コース) 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース) 第12週 グループワーク (グループ) 第13週 グループワーク (グループ) 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第15週 まとめ (コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12～13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。			
教科書・参考書等			

テーマごとにプリントを配布する。	
オフィスアワー	水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。	

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水2	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081509)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(9) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	関連授業科目		
担当教員名 神野 正彦, 浅野 裕俊	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート（概要版）10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ（7コース全体で授業）および全学共通コンテンツ（コース別に授業）を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース） 第2週 被害者や加害者にならないための心構え（全体） 第3週 キャンパスライフの心得（全体） 第4週 図書館を上手に利用する（全体） 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと（新入生合宿）（コース） 第6週 情報整理の方法（コース） 第7週 日本語技法その1（コース） 第8週 日本語技法その2（コース） 第9週 レポートの書き方（コース） 第10週 eメールの書き方・実践（コース） 第11週 プレゼンテーションの方法（コース） 第12週 グループワーク（グループ） 第13週 グループワーク（グループ） 第14週 プレゼンテーション実践（グループ） 第15週 まとめ（コース） ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2?4週 講義内容に関するレポートを作成する。			

第5?11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。

第12～13週 課題に関する資料を作成する。

第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 神野 水曜日12：00～13：00、工学部1号館7階 研究室

浅野 水曜日12：00～13：00、工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：081510)	大学入門ゼミ	前期水2	
大学入門ゼミ T(10) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士：入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局：大教センター DPコード：acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目		
浅野 裕俊, 神野 正彦	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力／課題解決のための汎用的スキルに対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力／21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート (概要版) 10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ (7コース全体で授業) および全学共通コンテンツ (コース別に授業) を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え (全体) 第3週 キャンパスライフの心得 (全体) 第4週 図書館を上手に利用する (全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと (新入生合宿) (コース) 第6週 情報整理の方法 (コース) 第7週 日本語技法その1 (コース) 第8週 日本語技法その2 (コース) 第9週 レポートの書き方 (コース) 第10週 eメールの書き方・実践 (コース) 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース) 第12週 グループワーク (グループ) 第13週 グループワーク (グループ) 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第15週 まとめ (コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。			

第2?4週 講義内容に関するレポートを作成する。
第5?11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第12～13週 課題に関する資料を作成する。
第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。
第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 浅野 水曜日12：00～13：00、工学部1号館7階 研究室
神野 水曜日12：00～13：00、工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。
毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081511)	大学入門ゼミ	前期水3	
大学入門ゼミ T(11)	水準 学士:入門科目	提供部局:大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード:acx	特定プログラムとの対応
Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 情報リテラシー		
石原 秀則, 郭 書祥, 寺尾 京平	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」, 「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、工学部共通コンテンツ(4学科全体での授業)と全学共通コンテンツ(学科別の授業)を中心に講義授業を行う。後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース) 第10週 グループワーク実習(コース) 第11週 グループワーク実習(コース) 第12週 グループワーク実習(コース) 第13週 プレゼンテーション実践(コース) 第14週 プレゼンテーション実践(コース) 第15週 まとめ(学科) (※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。 第5～6週 各自のノートを整理する。 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第10～14週 課題に関する資料を作成する。			

第15週	発表に関する自己評価を文章にまとめる。
教科書・参考書等	
特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。	
オフィスアワー	石原 秀則 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟4階1417研究室) 郭 書祥 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟4階1416研究室) 寺尾京平 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟3階1312研究室)
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。 毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。	

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：081512)	大学入門ゼミ	前期水3	
大学入門ゼミ T(12)	水準 学士：入門科目	提供部局：大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード：acx	特定プログラムとの対応
Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 情報リテラシー		
郭 書祥, 石原 秀則, 寺尾 京平	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応）。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は、工学部共通コンテンツ（4学科全体での授業）と全学共通コンテンツ（学科別の授業）を中心に講義授業を行う。後半は、担当教員のクラス（20名程度）ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】			
第1週	ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース）		
第2週	被害者や加害者にならないための心構え（全体）		
第3週	キャンパスライフの心得（全体）		
第4週	図書館を上手に利用する（全体）		
第5週	情報整理の方法（コース）		
第6週	レポートの書き方（コース）		
第7週	日本語技法その1（コース）		
第8週	日本語技法その2（コース）		
第9週	プレゼンテーションの方法（コース）		
第10週	グループワーク実習（コース）		
第11週	グループワーク実習（コース）		
第12週	グループワーク実習（コース）		
第13週	プレゼンテーション実践（コース）		
第14週	プレゼンテーション実践（コース）		
第15週	まとめ（学科）		
（※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。）			
【自学自習に関するアドバイス】			
第1週	講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。（6時間）		
第2～4週	講義内容に関するレポートを作成する。（15時間）		
第5～6週	各自のノートを整理する。（12時間）		
第7～9週	講義時に出された課題に関するレポートを作成する。（9時間）		
第10～14週	課題に関する資料を作成する。（15時間）		
第15週	発表に関する自己評価を文章にまとめる。（3時間）		

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 郭 書祥 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟 4 階1416研究室)

寺尾 京平 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟 3 階1312研究室)

石原 秀則 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟 4 階1417研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081513)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ T(13) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
Startup Seminar on Academic Literacy	関連授業科目 情報リテラシー		
担当教員名 寺尾 京平, 郭 書祥, 石原 秀則	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」, 「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、工学部共通コンテンツ（4学科全体での授業）と全学共通コンテンツ（学科別の授業）を中心に講義授業を行う。後半は、担当教員のクラス（20名程度）ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース） 第2週 被害者や加害者にならないための心構え（全体） 第3週 キャンパスライフの心得（全体） 第4週 図書館を上手に利用する（全体） 第5週 情報整理の方法（コース） 第6週 レポートの書き方（コース） 第7週 日本語技法その1（コース） 第8週 日本語技法その2（コース） 第9週 プレゼンテーションの方法（コース） 第10週 グループワーク実習（コース） 第11週 グループワーク実習（コース） 第12週 グループワーク実習（コース） 第13週 プレゼンテーション実践（コース） 第14週 プレゼンテーション実践（コース） 第15週 まとめ（学科） （※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。）			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。 第5～6週 各自のノートを整理する。 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第10～14週 課題に関する資料を作成する。			

第15週	発表に関する自己評価を文章にまとめる。
教科書・参考書等	
特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。	
オフィスアワー	石原 秀則 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟4階1417研究室) 郭 書祥 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟4階1416研究室) 寺尾京平 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号棟3階1312研究室)
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。 毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。	

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081514) 大学入門ゼミ T(14) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士：入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 ：大教センター DPコード ：acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 宮川 勇人, 松本 洋明, 石井 知彦	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間+事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎) 第10週 グループワーク実習(グループ) 第11週 グループワーク実習(グループ) 第12週 グループワーク実習(グループ) 第13週 プレゼンテーション実践(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース毎)			
*授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示で連絡をするので注意すること			

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）

第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）

第5~6週 各自のノートを整理する（10時間）

第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）

第10~14週 課題に関する資料を作成する（15時間）

第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず，テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 石井知彦：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

宮川勇人：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

松本洋明：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが，受け身で授業に臨むのではなく，本授業を通し，積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081515) 大学入門ゼミ T(15) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 松本 洋明, 宮川 勇人, 石井 知彦	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
到達目標 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ (コース全体での授業) と全学共通コンテンツ (コース別の授業) を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度) ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え (全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得 (全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する (全コース全体) 第5週 情報整理の方法 (コース毎) 第6週 レポートの書き方 (研究倫理に関する規範についての学習を含む) (コース毎) 第7週 日本語技法その1 (コース毎) 第8週 日本語技法その2 (コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法 (コース毎) 第10週 グループワーク実習 (グループ) 第11週 グループワーク実習 (グループ) 第12週 グループワーク実習 (グループ) 第13週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第15週 まとめ (コース毎)			

＊授業の順番が入れ替わる可能性もある．その都度，学内掲示で連絡をするので注意すること

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）

第2～4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）

第5～6週 各自のノートを整理する（10時間）

第7～9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）

第10～14週 課題に関する資料を作成する（15時間）

第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず，テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する．

オフィスアワー 石井知彦：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

宮川勇人：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

松本洋明：水曜 18時～19時（研究室の場所：2号館8階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する．本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが，受け身で授業に臨むのではなく，本授業を通し，積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である．

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081516)	大学入門ゼミ	前期水3	
大学入門ゼミ T(16)	水準 学士: 入門科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード: acx	特定プログラムとの対応
大学入門ゼミ	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	対応なし
担当教員名	関連授業科目 情報リテラシー		
石井 知彦, 宮川 勇人, 松本 洋明	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度) ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎) 第10週 グループワーク実習(グループ) 第11週 グループワーク実習(グループ) 第12週 グループワーク実習(グループ) 第13週 プレゼンテーション実践(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース毎) *授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示で連絡をするので注意すること			
【自主学習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる (5時間) 第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する (15時間)			

第5~6週 各自のノートを整理する（10時間）
第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
第10~14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず，テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する．

オフィスアワー 石井知彦：水曜 18時~19時（研究室の場所：2号館8階）
宮川勇人：水曜 18時~19時（研究室の場所：2号館8階）
松本洋明：水曜 18時~19時（研究室の場所：2号館8階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する．本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが，受け身で授業に臨むのではなく，本授業を通し，積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である．

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081601)	大学入門ゼミ	前期水4	
大学入門ゼミ A(1) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
健康と糖質(carbohydrates for health care)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高田 悟郎	関連授業科目 酵素利用学・食品科学コース科目群		
	履修推奨科目 酵素利用学・食品科学コース科目群		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
糖質は私たちの体の重要なエネルギー源となるだけではありません。近年、糖質の機能性が注目されています。オリゴ糖には整腸作用や免疫賦活作用、骨を強くする作用、希少糖には血糖値上昇抑制作用や抗肥満作用があります。糖質は私たちの健康で豊かな暮らしをサポートする機能をもっています。本ゼミでは、まず最初に全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。その後、生命と生体分子(糖、希少糖)の関わりを学び、栄養学的な側面だけではない糖の機能性を知ること、ライフサイエンス分野に関する基礎知識を増やす。さらに自分が選んだ課題について、事前に可能な限り情報を収集し、それらをまとめて、他の学生にわかりやすく説明するプレゼンテーションを行うことにより、総合的な能力を身につけます。			
授業の目的			
大学では自分で興味を持った事柄について自分で調べ、知識を身につけていく能力が必要とされています。本ゼミでは、まず生命における糖の役割を自ら調べることから始めます。さらに身の回りで使用されている糖を題材として、各自が設定した課題をグループワークを通じてまとめ、プレゼンテーションすることによって、課題探求能力を身に着けます。最終的には健康で豊かな生活を送るための糖質の重要性を、一般の人々に正確かつ分かりやすく説明できるだけの能力を身に着けていきます。			
到達目標			
(1) 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) (2) 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21 世紀社会の諸問題に対する探究能力) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) 生命における糖の役割を学ぶことを通して、糖の重要性を再認識できる。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業および学習のアドバイス】 初回に、本ゼミで取り上げる課題について、学生の希望を聞き、教員からの提案も加えて課題案をリストアップする。2回目に、各受講生が取り組む課題とそれぞれの担当者(グループ)を決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自で担当する課題について自身で学習し、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらうので、履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。			
【授業計画】 第1回 アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス、アンケート 第2回 学部共通コンテンツ?1 合宿 第3回 学部共通コンテンツ?2 合宿 第4回 学部共通コンテンツ?3 農学部分館訪問 第5回 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 第6回 全学共通コンテンツ?1. コンプライアンスと研究倫理 第7回 全学共通コンテンツ?2. ノートの取り方・メールの書き方 第8回 全学共通コンテンツ?3. レポートの書き方・文献の調べ方 第9回 全学共通コンテンツ?4. 文章の作成と要約の方法 第10回 全学共通コンテンツ?5. プレゼンテーションの方法 (第5回から第10回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第11回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ 第12回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ 第13回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ 第14回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ 第15回 まとめの講義と施設見学			

【自学自習のためのアドバイス】 第2回、3回、4回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間) 第6回、7回、8回、9回、10回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間) 第5回、11回、12回、13回、14回 自身又はグループの課題を見つけ出し、課題を解決するための学習を行う。また、グループで討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)
教科書・参考書等 特に指定しない。授業中に配布するプリントが中心とする。
オフィスアワー 質問や相談は、随時受付ける（農学部BW108）。 事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。 また、積極的に図書館を利用すること。 学習において、下記のホームページを参照してください。 http://www.kagawa-u.ac.jp/IIRSRE/

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081602) 大学入門ゼミ A(2) Startup Seminar on Academic Literacy 作物の品種改良を学ぶ Study of crop breeding	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
	担当教員名 杉田 左江子	関連授業科目 分子育種学 履修推奨科目 植物品種開発学	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 植物は、食料や家畜飼料の供給など農産物生産だけでなく、建材、繊維、燃料の原材料、ひいては花卉園芸など、様々な産業・文化と密接に関連している。本ゼミナールの前半では、「ノートの取り方」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーション技法」などを学習する。それらをもとに後半では、作物の品種改良に関するテーマを各自設定し、自主学習のうえ発表してもらう。聴講する学生はディスカッションに参加する。以上のゼミ活動により植物に関する知的好奇心を高めるとともに総合的な能力を身につける。			
授業の目的 大学は学生が能動的に学習し、知識や教養をはじめとして様々なスキルを身につける場である。自ら課題を課し、調べ、他者が理解できる形に再編成し発表するスキルは大学のみならず実社会でも重要である。本ゼミナールでは「作物の品種改良」を題材に、各自が設定した課題をグループワークを通じてまとめ、プレゼンテーションを行うことによって、課題探求能力を身につけることを目的の一つとする。また、その過程で植物の機能や植物バイオテクノロジーに関連した科学技術リテラシーの習得も目指す。			
到達目標			
1. 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸問題に対する探究能力) 3. プレゼンテーションを聴き、ディスカッションに参加することができる。 4. 作物の品種改良に関する基礎知識を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味・方向性を把握する。それを踏まえていくつかの課題を提案し、取り組むテーマを決定する。テーマに関して調べたら順番に発表してもらい、質疑応答や意見交換を行う。			
1. アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス、アンケート 2. 学部共通コンテンツ? 1 合宿 3. 学部共通コンテンツ? 2 合宿 4. 学部共通コンテンツ? 3 農学部分館訪問 5. 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 6. 全学共通コンテンツ? 1 コンプライアンスと研究倫理 7. 全学共通コンテンツ? 2 ノートの取り方・メールの書き方 8. 全学共通コンテンツ? 3 レポートの書き方・文献の調べ方 9. 全学共通コンテンツ? 4 文章の作成と要約の方法 10. 全学共通コンテンツ? 5 プレゼンテーションの方法 (5から10までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。 各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 11. 受講者による発表と討論-1 第1グループ 12. 受講者による発表と討論-2 第2グループ 13. 受講者による発表と討論-3 第3グループ 14. 受講者による発表と討論-4 第4グループ 15. まとめの講義と施設見学			
【自学自習のためのアドバイス】 4. 学部共通コンテンツ? 3 農学部分館訪問: 農学部分館を利用してみる(2時間) 5. 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明: 小レポートの作成(3時間) 6. 全学共通コンテンツ? 1 コンプライアンスと研究倫理: 小レポートの作成(5時間) 7. 全学共通コンテンツ? 2 ノートの取り方・メールの書き方: 小レポートの作成(5時間) 8. 全学共通コンテンツ? 3 レポートの書き方・文献の調べ方: レポートの作成(5時間)			

9. 全学共通コンテンツ?4 文章の作成と要約の方法：レポートの作成(5時間)
10. 全学共通コンテンツ?5 プレゼンテーションの方法：プレゼン資料の作成(5時間)
11-15. 受講者による発表と討論：発表の準備、質疑事項の再調査(30時間)

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントを中心とする。

オフィスアワー 特に設けない。質問や相談は、随時受け付ける。面会の場合は事前にメール等で連絡しアポイントを取ることを勧める。場所：農学部BW305-2

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的に課題に取り組むとともに、他の人の発表時には積極的に討論に参加すること。

教員の実務経験との関連

社団法人農林水産先端技術研究所に勤務。都道府県の品種育成者を対象とした分子マーカーを用いた解析法に関する講習を担当。社団法人での実務経験をもとに作物の品種改良についての講義も行います。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081603)	大学入門ゼミ	前期水4	
大学入門ゼミ A(3) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
「動物のエサ≠ヒトの食料」 (Animal “Feed” ≠ Human “Food”)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 松本 由樹	関連授業科目 畜産学(動物生産科学)、遺伝学、分子育種学、応用生物科学領域における倫理、農業技術特別実習(農場実習: 学部3年生以上であれば他学部履修可)		
	履修推奨科目 畜産学(動物生産科学)、遺伝学、分子育種学、応用生物科学領域における倫理、農業技術特別実習(農場実習: 学部3年生以上であれば他学部履修可)		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要			
近年、世界人口の急増に伴い食料生産にかかわることで人類への貢献を志す学生が多い。人間を取り巻く「環境」を俯瞰し、食料源となる作物や畜産物がどのように選択されたかを学術的背景から学ぶ。本ゼミでは、はじめに全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。その後、持続可能な「食料生産と環境保全」の重要性を学び、動物生産分野にある基礎知識を増やす。さらに自分が選んだ課題について、事前に可能な限り情報を収集し、それらをまとめて、他の学生にわかりやすく説明するプレゼンテーションを行うことにより、総合的な能力を身につける。			
授業の目的			
大学では自分で興味を持った事柄について自分で調べ、知識を身につけていく能力が必要とされる。特に、「世界人口展望」(FAO, 2013)は、今後40年間で世界人口は96億人に達し、今より20億人急増するとの報告がある。この人口急増を支える為には、次世代を担う学生自らが“食料”のあり方について熟議する必要がある。全人類を支える食料の生産量は、ほぼ倍増させる必要があるだけでなく、先進国と開発途上国の相互連携等、体制作りも急務である。これらの課題を解決するためには、各自がグループワークを通じてまとめ、プレゼンテーションすることによって、共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応し、一般の人々に正確かつ分かりやすく説明できる能力を身につける。			
到達目標			
(1) 与えられた課題(動物のエサ≠ヒトの食料)について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題発見・解決力) (2) 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション技法) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) 人口急増における問題点(食料、飼料、動物生産、排泄物処理、飼育環境の改善等)の抽出作業を通して、場を観察する能力を養うことができ、主体的に持続可能な「環境」と「ヒト」との関わりについて論じることができる。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、 60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
初回に、本ゼミで取り上げる課題について、学生の希望を聞き、教員からの提案も加えて課題案をリストアップする。2回目に、各受講生が取り組む課題とそれぞれの担当者(グループ)を決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自が担当する課題について下調べをし、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらうので、履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。			
1. 本ゼミナールに関するガイダンス、「動物のエサ≠ヒトの食料」に関する基本的な内容に関する講義、アンケート 2. 学部共通コンテンツ 1 3. 学部共通コンテンツ 2 4. 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 5. 全学共通コンテンツ 1. ノートの取り方 6. 全学共通コンテンツ 2. レポートの書き方 7. 全学共通コンテンツ 3. 日本語技法 8. 全学共通コンテンツ 4. プレゼンテーションの方法 (4から8までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。)			

9～14. 受講者による発表と討論

15. まとめの講義

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントが中心とする。

以下、参考資料

- ・日常生活にある畜産物とその歴史を以下の流れに沿って考えてみよう。
- ・野生動物と家畜をつなぐものは何か？
安定的に民族を養うための狩猟文化にみる、野生動物との良好な関係について「狩猟→野生動物の餌付け→家畜化」の背景を知り、良質な動物性たんぱく質確保の重要性を考える。
- ・野生動物とヒトとの関係には何がある？
ニワトリ、ブタ、ウシの起源を知り、ヒトの暮らしに寄り添った野生動物が如何に家畜化「馴化」されたか？家畜化に至った背景を遺伝要因と環境要因に分けて理解する。ヒトが動物の命を管理(Live Stock)できた背景を学び、現代社会と狩猟文化を比べてみよう。
- ・家畜化による生物学的変化には何が起こった？
近年、家畜毎に発育条件や規模、希少性が付与され、異なる価値を付与出来る様になった。動物(家畜)側の要因、ヒト側の要因を知り、家畜毎の経済形質の違いが生じるか考えてみよう。
- ・伴侶動物という考え方の重要性は何か？
平安時代から鎌倉時代にかけて走る馬の上から矢で的を射る競技においては、ウマとヒトの間でコミュニケーションが図られた瞬間に、最高のパフォーマンスを導き出せるとされる。古来、これら流鏑馬「やぶさめ」という競技からは、「人馬一体」という言葉が多用されるようになった。では、新しいコミュニケーションツールとしての、ヒトと動物の関係とはどのようなものか？「用畜」と「役畜」の違いを調べ新しい価値を見出してみよう。
- ・動物介在療法や動物介在活動ってなぜ日本に浸透しない？
「役畜」の発展系として、近代では様々な遺伝的背景を持つ動物が選抜されている。では、「用畜」との違いはなにか？食べる為の家畜という考え方から、畜産物に機能性を付与して新しい産業を生み出されている。香川県内で行われているイルカセラピーなどは、学系を超えた新しい研究の可能性や重要性が含まれる。一方で、動物飼育管理法について正しい理解や倫理観、法令順守についても学ぶ必要がある。
- ・おいしいお肉の向こうには...家畜のエサ≠ヒトの食料ってなに？
1キロの牛肉(食料)を生産する為には、何キロの穀物飼料(エサ)を給餌し、何トンの飲料水を吸飲しているのだろうか？家畜の排泄物は誰が処理しているのか？私たちの身近な畜産問題について話題提供し、食糧問題と家畜のエサを取り巻く環境要因の問題点についても情報収集してみよう。

教科書・参考書等

授業中に資料を配布しますが、事前に以下のサイトで情報収集をしておくこと。

- ・ルーラル電子図書館 (<http://http://lib.ruralnet.or.jp/>)
- ・世界食糧機構 (<http://www.fao.or.jp/>)
- ・畜産ZOO館 (<http://zookan.lin.gr.jp/kototen/>)

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。
積極的に図書館を利用すること。

オフィスアワー 質問や相談は、随時受け付ける（農学部CW201-b）。
事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

以下のサイトで自学自習すること。すべて無料でアクセスできます。ルーラル電子図書館のサイトへの登録は、農学部図書館で確認すること。

- ・ルーラル電子図書館 (<http://http://lib.ruralnet.or.jp/>)
- ・世界食糧機構 (<http://www.fao.or.jp/>)
- ・畜産ZOO館 (<http://zookan.lin.gr.jp/kototen/>)

教員の実務経験との関連

動物生産科学領域の研究者。持続可能な動物生産について理解を深めるため、アフリカ ガーナで在来家畜を用いた動物生産の確立に貢献している。本講義では、日本の貢献を紹介し、世界全体における動物生産の重要性について紹介したい。本学農学部では、畜産学、応用生物科学領域の倫理、動物生産科学特論等を担当している。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水4	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081604)	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリ テラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ A(4) Startup Seminar on Academic Literacy	授業形態 講義 グル ープワーク	単位数 2	
微生物バイオテクノロジー入門 Introduction to Microbial Biotechnology	関連授業科目 生物学B、微生物学、応用微生物学I、応用微生物学 II		
担当教員名 渡邊 彰	履修推奨科目 生物学B、微生物学、応用微生物学I、応用微生物学 II		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
バイオテクノロジーとは、生物が持つ様々な能力を上手く利用して、私たちの生活に役立てる技術である。その中でも、微生物を用いたバイオテクノロジーは、食品や医薬品の生産の他、エネルギーの生産や廃水処理など、実は幅広く私たちの生活に関わっている。しかも、その活用面は遺伝子レベルでの技術開発等も相まってさらなる広がりを見せている。 本ゼミナールでは、まず大学での「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、および「プレゼンテーションの方法」などを学修する。その後、選択した課題について調べ、プレゼンテーションや討論を通じて、微生物の持つ多様な能力やそのバイオテクノロジーについて理解を深めていく。			
授業の目的			
大学とは、知的好奇心に基いて、自ら知識を身につけたり研究をしたりするところである。本ゼミナールでは、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、および「プレゼンテーションの方法」などを学修し、農学分野に深く関わる「微生物のバイオテクノロジー」を題材に課題発見や課題解決のための能力を養う。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集し、整理して、まとめる能力を身につけることができる{共通教育スタンダードの課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)に対応}。 2. 各自が設定した課題に対して、まとめ、相手にわかりやすいプレゼンテーションをする能力を身につけることができる(共通教育スタンダードの21世紀社会の諸問題に対する探求能力に対応)。 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 微生物に関する基礎知識を身につけるとともに、それらを利用したバイオテクノロジーについて説明することができる。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、授業態度、プレゼンテーションおよび討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
「微生物およびそのバイオテクノロジー」に関する基本的な講義後、受講生の興味や関心を踏まえていくつかの課題を提案する。その後、各グループ・各受講生が取り組む課題を決定し、第9?15回においてプレゼンテーションおよび討論をしてもらう(課題のプレゼンテーションはグループ単位で行う)。そのため、各グループ・各受講生はプレゼンテーションまでの間に、決定した課題に関して、学修し、準備をしておく。			
第1回 授業の概要、全学共通コンテンツ1:メールの書き方			
第2回 学部共通コンテンツ1			
第3回 「微生物およびそのバイオテクノロジー」に関する基本的な講義1、図書館訪問			
第4回 「微生物およびそのバイオテクノロジー」に関する基本的な講義2、課題の説明			
第5回 課題の決定と取り組み方、全学共通コンテンツ2:情報整理・ノートの取り方			
第6回 全学共通コンテンツ3:レポートの書き方・コンプライアンスと研究倫理			
第7回 全学共通コンテンツ4:日本語技法、全学共通コンテンツ5:プレゼンテーションの方法			
第8回 学部共通コンテンツ2			
第9回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ1			
第10回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ2			
第11回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ3			
第12回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ4			
第13回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ5			
第14回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ6			
第15回 受講生によるプレゼンテーションおよび討論・まとめ7			
※授業の進行状況等により、授業計画の順番は多少変更する可能性がある。			

[自学自習に関するアドバイス]

第1回：本授業テーマ「微生物およびそのバイオテクノロジー」に関して出された課題について考える。また、全学共通コンテンツ1「メールの書き方」で学習した内容を復習し、修得する。

第3, 4回：本授業テーマ「微生物およびそのバイオテクノロジー」の内容を理解するため、講義の予習・復習を行う(配布資料を利用してノートにまとめる)。

第5?7回：全学共通コンテンツ2?5（「情報整理・ノートの取り方」、「レポートの書き方・コンプライアンスと研究倫理」、「日本語技法」、および「プレゼンテーションの方法」）の内容を実践できるようにするため、授業内容の復習、そして指定の課題やその見直しを行う。

第9?15回：受講生によるプレゼンテーションはグループ単位で行うので、個人およびグループ内で計画を立て、早い段階から時間を掛けて十分な準備を行う。また、討論に積極的に加われるように、他のグループや受講生の発表についても、ノートにまとめ学修する。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントが中心となる。

オフィスアワー 授業終了後に行う。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

責任を持って各課題に取り組むとともに、プレゼンテーションでは積極的に討論に参加すること。また、授業中に理解できなかったポイント等があれば、オフィスアワーや図書館等を利用して理解に努めること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2020年度 前期水4	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード:081605) 大学入門ゼミ A(5) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
身の回りの酵素 (Enzyme in everyday life)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 森本 兼司	関連授業科目 酵素利用学・食品科学コース科目群		
	履修推奨科目 酵素利用学・食品科学コース科目群		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
前半は、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」を解説する。後半は、身近な酵素について学ぶ。酵素は生物が作り出す生体触媒であり、その化学的本体はタンパク質からなっている。酵素は食物の消化や運動など生体内で起こる様々な反応を触媒しており、生命を維持していくうえで欠かすことのできない生体分子である。一方で、人間は生活を豊かにするために、古代より様々な用途に酵素を利用してきた。本ゼミでは、まず酵素について講義し、受講者に酵素とはいかなるものか理解してもらう。その後受講者は、興味をもった身のまわりの酵素について資料を収集しまとめ、その内容を一人または少人数グループが他の学生にわかりやすく発表し、全員で討論することによって、身近な酵素についての理解を深める。			
授業の目的			
大学では知的好奇心に基き、自ら知識を身につけ、研究をするために存在する。本ゼミでは大学における講義のスタイルに慣れ、これに対応する能力、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」を前半で学習する。後半では、まず酵素とは何かを理解し、さらに身の回りにある酵素を題材として各自がまとめ、各自またはグループ単位でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に着けることを目的とする。			
到達目標			
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】受講者は各自またはグループで興味のある酵素を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその酵素についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。			
【授業計画】			
1. オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 2. 学部共通コンテンツー1 合宿 3. 学部共通コンテンツー2 合宿 4. 全学共通コンテンツー1. コンプライアンスと研究倫理 5. 全学共通コンテンツー2. ノートの取り方・メールの書き方 6. 全学共通コンテンツー3. レポートの書き方・文献の調べ方 7. 全学共通コンテンツー4. 文章の作成と要約の方法 8. 全学共通コンテンツー5. プレゼンテーションの方法 9. 酵素利用学概論(講義) 10. 発表準備1 11. 発表準備2 12. グループによる発表ー1回目 13. プレゼン資料 改良 14. グループによる発表ー2回目 15. まとめ			
【自学学習に関するアドバイス】			
4~11週:各回あたり計7~8時間程度をあてる			

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントを中心とする。

オフィスアワー 質問や相談は、随時受付ける（農学部BE102-1）が水曜日5校時が良い。
それ以外には事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。 また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 081606)	大学入門ゼミ	前期水4	
大学入門ゼミ A(6)	水準 学士: 入門科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
Startup Seminar on Academic Literacy	分野 アカデミックリテラシー	DPコード: acx	特定プログラムとの対応 対応なし
天然物の科学 (Science of natural products)	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目	生物学B、化学B、基礎生物化学、基礎有機化学	
古本 敏夫	履修推奨科目	生物学B、化学B、基礎生物化学、基礎有機化学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習40時間+事後学習20時間)			
授業の概要			
天然物とは、一般的には生物によって作り出された有機化合物であり、その化学構造や分類、役割は多種多様である。それらの中には、生物の生命活動において重要な役割を持っている物質や他の生物に作用する物質などのほか、私たちの生活に役立っている物質も多数存在している。本ゼミでは、まずはじめに全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。その後、「天然物の科学」というテーマに基づいて学習することにより、天然物について理解を深める。その際、選択した課題について、自ら情報を収集してそれらをまとめるとともに、その成果のプレゼンテーションおよび討議を行うことにより、総合的な能力を身につける。			
授業の目的			
大学では、自分で興味を持った事柄について、自分で調べて知識を身につけていく能力とそれを他者に説明できる能力が必要とされている。本ゼミでは、まず「文章の作成方法」や「プレゼンテーションの方法」などの全学共通コンテンツを学習することにより、その事柄や意見等を適切に説明できるようになるための基盤的な能力を身につける。また、自然界から得られる重要な物質である「天然物」を題材にして、自ら設定した課題について調べ、グループワークを通じてまとめ、最終的にプレゼンテーションすることにより、課題探求能力を身につける。			
到達目標			
(1) 自ら設定した課題を、適切な方法で情報を収集して整理し、まとめることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 得られた知識を、他者にわかりやすく説明することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 学習成果の発表を、研究倫理に関する規範に則った方法で行うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 天然物について、その重要性や多様性、役割、利用などに関して認識し、それらを適切に説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画]			
第1回	本ゼミに関するガイダンス、課題に関する講義、など		
第2回	学部共通コンテンツ?1 合宿		
第3回	学部共通コンテンツ?2 合宿		
第4回	学部共通コンテンツ?3 農学部分館訪問		
第5回	課題の説明と決定、取り組み方と発表方法についての説明		
第6回	全学共通コンテンツ?1 文章の作成と要約の方法		
第7回	全学共通コンテンツ?2 ノートの取り方、メールの書き方		
第8回	全学共通コンテンツ?3 レポートの書き方、文献の調べ方		
第9回	全学共通コンテンツ?4 プレゼンテーションの方法		
第10回	全学共通コンテンツ?5 コンプライアンスと研究倫理		
(第5回から第10回までの間に、各自の課題に関して自学自習し、発表の準備をする)			
第11回	受講者による発表と討論?1		
第12回	受講者による発表と討論?2		
第13回	受講者による発表と討論?3		
第14回	受講者による発表と討論?4		
第15回	受講者による発表と討論?5、まとめ		
上記の授業計画は、状況等により変更しますので、連絡・掲示等に注意すること。			
[授業および学習の方法]			
本ゼミの前半に、各自が取り組む課題の決定やグループ分けなどを行う。その後、課題を行うために必要な基礎知識である情報収集、整理、発表の方法などについて学習する。この間に、各自が取り組む課題についても調べ、発			

表のための準備を進めておく。後半に、各自が取り組んだ課題について発表するとともに、質疑応答や意見交換などを行う。

[自学自習のためのアドバイス]

科学的・客観的・多面的な視点を念頭において、課題に取り組む。課題の発表で使用する語句（専門用語など）についても、簡潔に説明できるように準備しておく。

教科書・参考書等

特に指定しない。必要に応じて、参考書等の紹介やプリント等の配布を行う。

オフィスアワー 本ゼミ終了後?17時頃（当該講義室または農学部BE202）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講者の発表に対する討論にも積極的に参加すること。 また、図書館を積極的に利用すること。